

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 10日

事業所名 パルケあゆむ

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	もともと高齢者施設のデイルームを使用している為、十分なスペースを確保できている。	
	2 職員の配置数は適切である	88%	13%	利用日を固定化し、個々の特性に合わせスタッフの配置を決めている。	重度の児童も増えていることからもう少し職員を増やしてほしいという意見もある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	88%	13%	1の理由から、設備の設置基準をクリアし、バリアフリーで設計された建物である。	スペースが広いため、死角になる箇所があり、職員の配置などで対処しているが更なる配慮が必要である。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	目標設定と振り返りは、ほぼすべての職員が参加できている。	一部参加できない職員についてはケース会議録目を通してもらっているが、そのような職員の意見も積極的に反映できるような仕組みを構築していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%	自己評価をするにあたり、全ての家族にアンケートを配布している。その意向などを把握し、できるところから業務改善につなげている。	普段より家族の意向や要望など汲み取るようにしているが、家族によってはあまり意見交換の機会が持てないケースもあり、そいつた家族の意向も汲み取れるよう仕組みを構築していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	本年5月中に事業所のホームページに公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	外部評価は今のところ行なっていない。	総合的に判断し、必要であれば外部評価を行っていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	63%	38%	コロナ禍のため、内部での勉強会を行ったり、リモートでの研修に参加している。	研修に参加していない職員もいるので、全ての職員が自己研鑽に充てる機会を持つよう工夫する。(勤務内にそのような時間に充てる仕組みなど)
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	88%	13%	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズをできる限り詳細に拾い、デイサービス計画に反映させている。	拾い上げられていない課題やニーズも少なくないので、子どもや保護者との情報交換や対話により、より優先順の高い課題やニーズを拾い上げられるようにしていく。
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	標準化されたアセスメントツールを使用している。	内容については精査し、その都度改善していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	63%	38%	活動プログラムはほぼ全員で話し合って行っている。	一部参加できていないパート職員もいるので、その方の意見も反映できる仕組みを構築する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%	個人、集団活動にて取り組みやすいように子供たちの興味のあることを取り入れている。	固定化しないような配慮はしているが、ある程度パターン化されたようになってしまっているので子供たちが楽しく活動に参加できるように新しいことも積極的に挑戦していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75%	25%	平日と休日、長期休暇に分けてそれに応じて、課題や活動内容を決めていている。	更に曜日によりその曜日の色が必然的に出てきてるのでその曜日に合わせた設定も検討していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	63%	38%	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて、計画書を作成している。	計画では個人に対してスポットを当てて作成していることが多いが、利用児の年齢も幅広く週に何度も利用する児童については周りの児童との関係性も考慮して、その日その日で柔軟に変え支援していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	サービス提供前に職員間で話し合を持ち、その日の支援内容や役割分担について確認している。	勤務時間の短いパート職員については話し合いに参加できず支援内容や役割分担について必ずしも伝わっていないケースもあり、そのようなことがないようそこは徹底していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	13%	サービス終了後に終礼を行い、その日行われた支援の振り返れをし、気付いた点を共有している。	勤務時間の短いパート職員については終礼に参加できずその方の気づきを終礼以外の時間でできる限り拾い上げ皆と共有していく必要がある。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	75%	25%	日々の支援に関して個々に記録をとることを徹底している。支援の検証・改善は適宜行っている。	記録を書くことについては業務外に行ったり、サービス提供時間中だったりするので職員の負担軽減を図れるよう効率化を徹底していく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを行い、個別支援の見直しの必要性を判断している。	見直し時期がずれることもあるので新たな課題やニーズにすぐ対応できるようにする。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	63%	38%	ガイドラインの総則を参考に基本活動を複数組み合わせて支援を行っている。	ガイドラインの総則については全職員に周知徹底する。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	児童管理責任者、児童指導員、管理者などその子供に精通した者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88%	13%	サービスの提供がスムーズに行われる様に学校との情報共有は適切に行っている。	情報共有は行っているが、下校時刻の急な変更など対応が遅れるケースも稀にあり。今後の課題である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	38%	63%	主治医による医療的見知りによるアプローチの方法や投薬の変更など保護者を通じて情報を共有している。	今のところ主治医との連絡体制を整えるほど医療ケアが必要な子どもは受け入れていないが、必要に応じて体制を整える準備をしていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	63%	38%	就学前に利用していた保育所などに情報提供を求め、情報の共有と相互理解に努めている。	情報提供は資料によるものが多く、実際に支援に当たっていた方に会い(または電話で)、話を聞くなど書面では聞き取れない情報も聞き取り、支援に繋げられると考える。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	63%	38%	障害福祉サービスに移行する場合、必要に応じて支援内容などの情報を提供している。	情報提供の書式についてはより分かりやすく伝わるよう改善していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	63%	38%	令和4年度はコロナ禍で訪問や外部の研修には参加できていないが、リモートなりの研修で助言などを受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	コロナ禍ということもあり、そのような機会はなかった。	コロナ禍で交流はできていないが、終息したら検討していくたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	コロナ禍でそのような機会がなく、参加できていない。	コロナ禍でそのような機会はないが、終息したら検討していくたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	63%	38%	日頃から保護者とのコミュニケーションができる限り密に行い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持つようにしている。	家庭の事情であまり話をする機会が少ない家族については、時間の調整を話し合う時間を作るようにしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	38%	63%	以前にペアレントメンターについては、実施したことがある。	今後はペアレントトレーニングなどの情報について発信し、ペアレントトレーニングなど要望に応じて行ってていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	13%	利用開始前に(契約時など)保護者との話し合いの場を持ち、その際丁寧な説明に努めている。	料金改定など利用者負担にかかることなどその都度書面にて提示しているがそれが正確に伝わっているか確認していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%	保護者からの子育ての悩みなどに対する相談に応じ、場合によつては相談支援事業所や学校などとも連携し、必要な助言など支援を行っている。	より適切に助言や支援が行えるよう、相談に応じる職員のスキルを向上できるよう取り組んでいく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	今のところ保護者会などは行っていない。	会を開催する時間調整など難しく、またその必要がないという保護者もおられ、今後保護者同士の連携をどのように行っていくか検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	63%	38%	苦情についての体制は整備している。小さなご要望やご不満についても拾い上げ、そのようなご意見にすぐに対応し丁寧な説明を心掛けている。	保護者からのご要望についての対応は基本管理者が行っているが、勉強会などを通じてどの職員も対応できるようにし、それを皆で共有できるよう連絡・報告を徹底していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に1回通信紙を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している。	掲載内容等皆様により興味を持っていただくよう、工夫していく。
	35	個人情報に十分注意している	88%	13%	職員教育の場において周知徹底している。(個人情報の取り扱いについて誓約書を交わしている。)	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	75%	25%	視覚化や非言語的コミュニケーションを活用し、保護者については連絡帳でやり取りしている。	情報伝達のために他にも良い方法があるか検討する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	要望に応じ見学については地域住民の方に門戸を開いている。(令和4年度は行っていない。)	事業所の行事に招待するなど今後検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%	各マニュアルを策定し、職員に周知している。保護者についても必要に応じ周知している。	マニュアルは時代に合わせ改定し、周知徹底していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	消防計画を策定し、年に2回避難訓練を行っている。	他事業所との合同訓練や様々な災害に対応した訓練を行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	63%	38%	人権擁護や虐待についての研修会を定期的に行っていった。	令和4年度は虐待についての基礎知識や普段の支援の中でどのようなことが虐待に当たるかなど話し合った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	88%	13%	身体拘束を行う場合の条件を設定し、子どもや保護者に契約の段階で十分説明した上で了解をいただいている。その旨、重要事項に記載している。	文言については詳細に検討し、各々児童の特性に合わせて対応できるよう詰めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	13%	アセスメントの段階で基本情報としてアレルギーについてお聞きし、食べ物の提供時に配慮している。	アレルギーのある子どもについては、お菓子などの成分表にも目を配り見落としがないよう十分注意する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	13%	ヒヤリハット事例集を作成し、事業所内で共有している。	職員に大きな事故に繋がらないよう未然に防ぐヒヤリハットの重要性を周知し、ヒヤリハットを上ることの習慣化を図っていく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 5月 10日

事業所名 パルケあゆむ

保護者等数(児童数)31 回収数 23 割合 74 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	96%	4%	0%	0%		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	74%	9%	0%	17%	職員をもう少し増やしてほしいという意見があった。	工夫をし適材適所職員を配置する。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	74%	13%	0%	13%		
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	91%	9%	0%	0%		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	87%	4%	4%	4%		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	39%	13%	9%	39%		
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	91%	4%	0%	4%		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	91%	4%	0%	4%		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	74%	22%	4%	0%		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9%	17%	30%	43%		長期休暇の時等保護者と一緒に活動できるプログラムを検討する。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	78%	9%	0%	13%		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	91%	4%	0%	4%		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	61%	9%	9%	22%		
	14	個人情報に十分注意しているか	91%	0%	0%	9%		
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	65%	22%	0%	13%		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	35%	13%	0%	52%		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	96%	4%	0%	0%		
	18	事業所の支援に満足しているか	96%	4%	0%	0%		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。